

岩国COPD地域連携パス

氏名

男・女

生年月日

年 月 日生 (歳)

〒 —

住所

電話番号 ()

●記入開始 年 月 日 ●記入終了 年 月 日

2025年11月版 Ver.1

岩国COPD地域連携パス

1. 地域連携パスは、あなたと地域のかかりつけ医と呼吸器疾患を専門で診療する病院の医師が、あなたの治療経過を共有できるパスのことです。
2. このパスを活用することで地域の医療機関が協力し、患者さんの視点にたった安心で質の高い医療を提供し、地域全体で患者さんを支えることを目標としています。
3. 本パスの活用により、患者さんにとっても医療機関にとっても、治療計画や患者さんの状態の把握が容易となり、待ち時間や通院時間の短縮、さらには患者さんの不安の解消に役立つものと考えています。

かかりつけ医、専門病院の役割

1. かかりつけ医

日頃の診療は、地域のかかりつけ医の先生が担当します。

呼吸器疾患や、それ以外にお持ちの病気の診療を担当します。

主に、

- 1) 定期的な診察、血液検査、胸部レントゲンなどの画像検査
- 2) 定期的な禁煙指導やお薬の処方
- 3) 息切れや咳、痰などの各種症状の診察と治療

2. 専門病院

年に何回か受診していただき、精密検査と診察を行います。

精密検査としては、血液検査、呼吸機能検査、CT検査などがあります。検査結果は、連携パスに記載してかかりつけ医に報告します。

また、病状が変化したときなど、かかりつけ医の判断で、臨時に病院で診察を行うこともあります。

岩国COPD地域連携パスで受診される患者様へ

COPD は適切な治療を受けることにより、息切れや咳・痰などの症状を軽減し、少しでも快適な毎日を過ごせるように治療を行います。また肺がんの発生率も高いため、できる限り早期発見を行うことで治療につながることを目標として検査を行います。

【外来の流れ】

① 診察前に検査を行います

- ・胸部レントゲン
- ・呼吸機能検査
- ・呼吸一酸化窒素検査
- ・血液検査
- ・胸部CT（予約時に依頼がある場合、及び患者様が希望時）

② 診察前に問診票を記載します

③ 診察：検査結果の説明、治療についての説明を行います

④ 追加検査：気道可逆性試験（気管支拡張薬吸入後の呼吸機能検査）や1分間椅子立ち上がりテスト、6分間歩行試験、心臓超音波検査、栄養指導などを追加で行う可能性があります

⑤ 呼吸不全がある場合：在宅酸素療法について相談します（呼吸機能障害で身体障害の適応となる場合もあります）

⑥ 治療が追加となる場合：院外薬局で薬を受け取る際に吸入薬についての指導を受けます

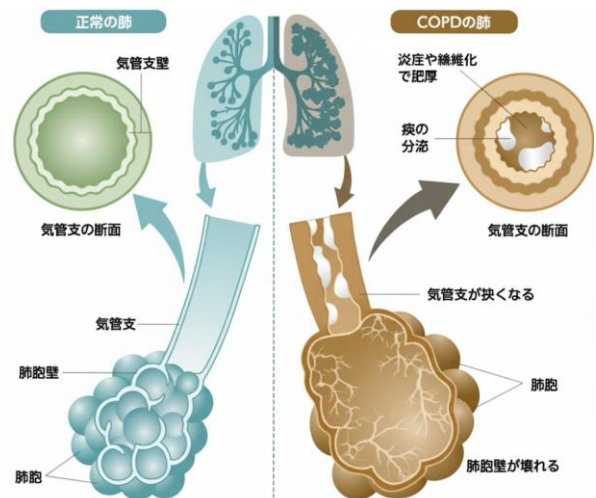
⑦ 必要に応じて短期入院での呼吸リハビリテーションなども検討します

COPD（たばこ肺）について

タバコの煙などの有害な物質を長い間吸い続けることで起こる肺の病気です。

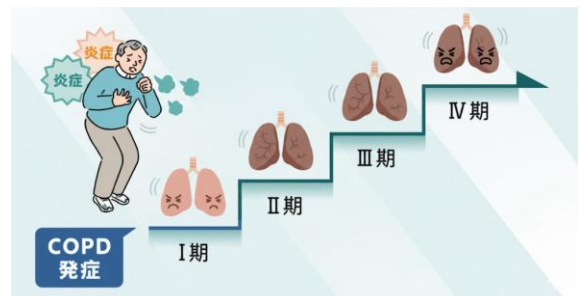
国内の調査では、40歳以上の約530万人、70歳以上の約210万人がCOPDに罹患していると報告されており、珍しい病気ではありません。

肺や気管支が“炎症”を起こして、からだに酸素がうまく取り込めなくなっています。呼吸によって吸い込まれた酸素は、気管支を通過して肺胞（はいほう）にたどりつき、からだに取り込まれていきます。COPD患者さんの肺では、タバコの煙や大気汚染などが原因で炎症が起き、それが持続することで下図のような変化が起こっています。その結果、空気の通り道がせまくなる・酸素の取り込みが不十分になる状態が合わさり、からだに酸素不足で息苦しい状態が起きており、動いた時に息切れをしたり、慢性的に咳や痰などの症状が続きます。



COPDの病期

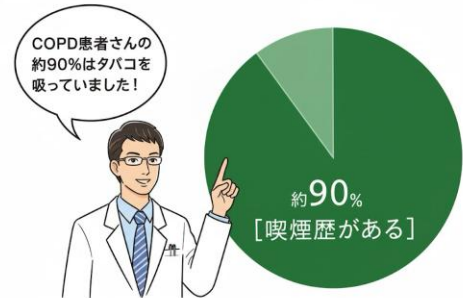
COPDでは空気の通りやすさ（気流閉塞）を測り、病期と治療目標を定めます。肺機能検査による病期はI期からIV期に分類されます。一度病期が進んでしまったら、治療して空気の通りやすさを元の状態に戻すことは困難です。このため発症後に最も大切なことは、これ以上“進行させない”ことです。



COPD（たばこ肺）の原因と禁煙について

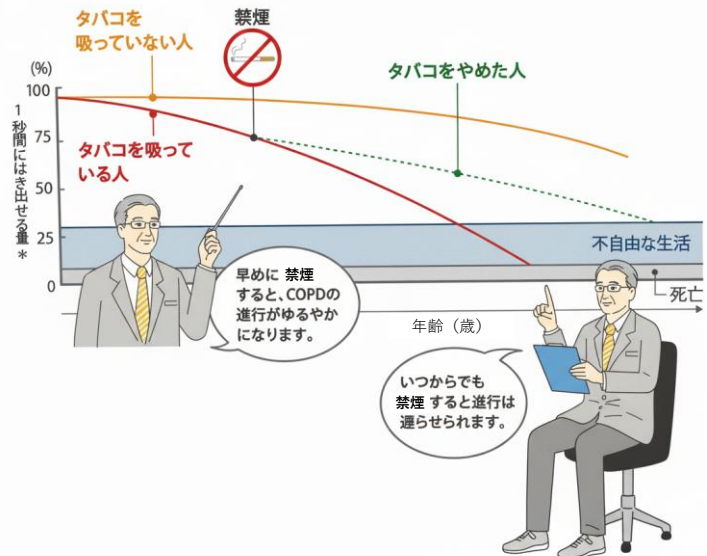
受動喫煙も含めて、タバコがCOPDの最大の原因です。

タバコ以外には、大気汚染、有機燃料(バイオマス)を燃焼させた煙の吸入、職業性の粉塵や化学物質への曝露、呼吸器感染症や小児期の呼吸器疾患なども関係していると考えられています。



何よりも禁煙はCOPDの最大の治療となります。

「COPDになってしまったから、もう禁煙しても意味がない」と思う方もいますが、**禁煙**はいつから始めても、COPDの進行をゆるやかにします。



「何度、禁煙しようとしてもできないのは自分の意志が弱いから」と思っているかもしれませんが、**禁煙できないのはニコチン依存症という病気のため**で、意志だけの問題ではありません。

担当の医師に相談したり、禁煙外来を利用しましょう。

COPD（たばこ肺）のQOLについて

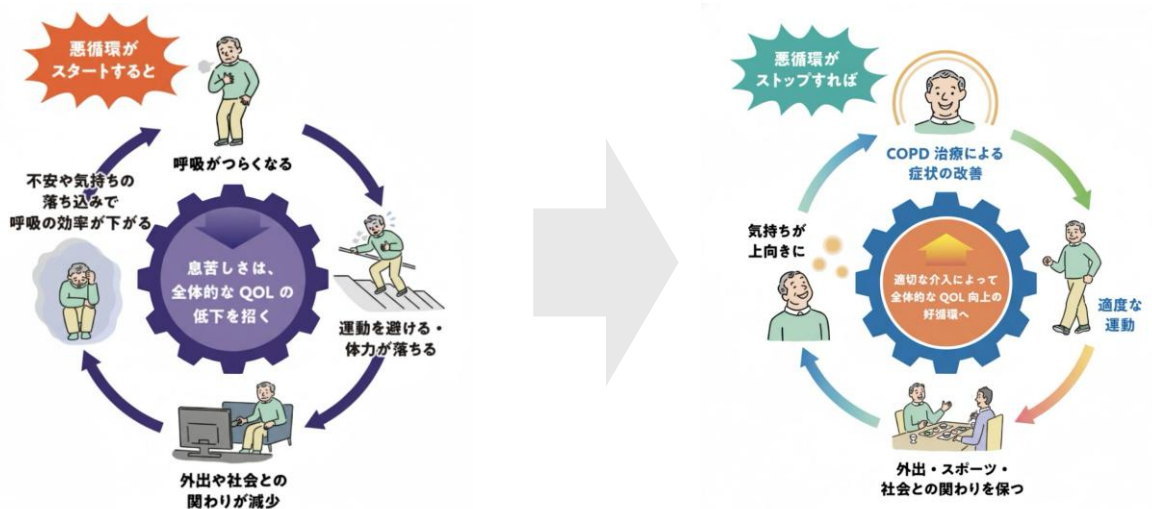
COPDはQOLを著しく低下させます

COPDの初期症状として、階段や坂道で息切れするようになります。そのうち、平らな道でも急ぎ足で歩くと息切れするようになり、さらに進行するとトイレや着替えなど普段なにげなく行っている日常的な動作でも、からだに酸素が不足し、息切れするようになります。動かないように自宅でじっとしていれば息切れは避けられますが、だからといって「**歯を磨く**」、「**お風呂に入る**」、「**服を着替える**」などの動きをひかえてしまえば、社会とのつながりが少なくなってしまいます。



息切れの“悪循環の輪”を止めましょう

COPDは、からだに酸素が不足することで、息苦しいだけでなく、思考、感情、行動、身体感覚が影響し合い、状態がさらに悪くなってしまいう“悪循環の輪”につながっていきます。社会とのつながりを保ち、将来的な寝たきり・要介護状態を防ぐためにも、呼吸器専門医に早めに相談しましょう。

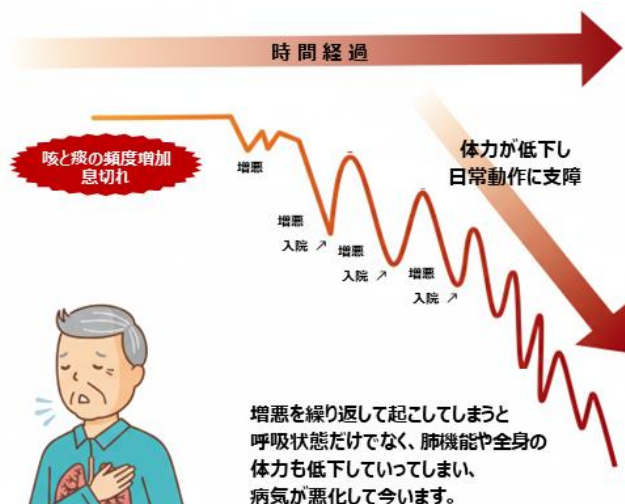


COPD（たばこ肺）増悪について

COPDの“増悪”って何？

COPDの増悪とは、風邪やインフルエンザなどの呼吸器の感染症をきっかけに、息切れの増加、咳や痰の増加、胸部の不快感や違和感などが現れて、いつもの治療で改善せず、さらに他の治療を加える必要がある状態をいいます。COPDは増悪のたびに肺の機能も悪化することが知られており、命にかかわることもあります。このような事態を避けるためには、増悪をくり返さないことが重要です。COPDは増悪のたびに段階的に悪化することが知られています。このような事態を避けるためには、「増悪を繰り返さない」、「増悪が起きたら早めに対応する」ことが重要です。

増悪の症状が起こったら、早めに担当の医師に連絡しましょう。



増悪の症状

- 咳と痰の頻度が増える
- いつもより強い息切れ
- 足がむくみ、体重が増える
- 38℃以上の発熱
- 頭がぼ～っとして、頭痛、眠気、集中力が低下する
- 脈が速い、動悸がする

増悪の予防

増悪の予防は、禁煙と風邪を引かないことです

禁煙は、増悪を予防するためにも重要です

禁煙によって増悪を起こす頻度が減少することが分かっています

- インフルエンザワクチン、肺炎球菌ワクチンを接種しましょう
- 人混みや、風邪を引いている人との接触は避けましょう
- 吸入薬をきちんと吸入しましょう
- 運動をして体力を落とさないようにしましょう
- よい睡眠をとりましょう

COPD（たばこ肺）の治療目標について

COPDの治療目標とは？

COPDの治療目標は、「**いまの状態を良くすること**」と、「**将来リスクを低減すること**」です。

早く病気を発見して治療を続ければ、症状を和らげたり、病気の進行を抑えたりすることができます。

① 今の状態をよくすること

症状と生活の質（QOL）を改善するために、処方されたお薬をきちんと使用し、からだを動かしましょう。



② 将来リスクを低減すること

増悪を予防し、病気の進行を抑えましょう。



治療を開始するにあたって、
下記のような日常生活の目標を主治医とたててみることも大切です。



夜、ぐっすり眠れる



日常の動作を楽にする



階段の上り下りが
楽になる



買い物に行ける

COPD（たばこ肺）の治療について

薬を使う治療

日々の症状を和らげ、生活の質（QOL）を改善させること、悪化を抑制することを目標に治療を行います。

COPDの治療では、呼吸を楽にするお薬や、炎症を抑えるお薬、痰を出しやすくするお薬などを、目的に応じて組み合わせて使います。症状がないときにも継続して使用するお薬です。



気管支拡張薬

うまく吸い込むことで気管支や肺に作用し、呼吸を楽にするお薬です。



吸入ステロイド

気道の炎症を抑えるお薬です。痰を出しやすくするお薬です。増悪を抑制します。



喀痰調整薬

痰を出しやすくするお薬です。



注射薬

炎症を伝える物質のはたらきを抑えることで、症状を改善するお薬です。

薬を使わない治療

お薬を使わずに行う主な治療法は、何よりも**禁煙治療**です。

他には呼吸リハビリテーションがあります。筋力トレーニングや呼吸練習を行うことで、呼吸を楽にしたり、身体活動を向上させたりすることを目指します。

また、患者さん自身がCOPDに対する理解を深め、病気とうまく付き合っていく能力を身に付けることや、動けるからだを保つための栄養療法も大切です。

そのほか、患者さんの状態に合わせて以下のような治療を行います。



禁煙治療

禁煙をすることで、COPDの悪化を防ぐことが期待できます。



酸素療法

酸素を吸入することで、呼吸を楽にします。



ワクチン接種

感染症によるCOPDの悪化を防ぐため、ワクチン接種を行います。



併存疾患の治療

COPDの悪化や身体活動に影響を及ぼす併存疾患の治療を行います。

主治医に伝えるべき症状について

COPDによって日常生活もままならない状態になる前に早期治療を行うことが重要です。

あなた自身も気づかずに階段や坂道を避けていることもあるため、**からだを動かしたときにどんな症状が出るのかを、主治医にしっかりと伝えるようにしましょう。**

近年は医師の専門分野が細分化されており、あなたの主治医が専門外の場合もあります。現在の診断や治療方針に関して不安がある場合は、主治医に連携病院の呼吸器内科専門医の紹介状を頼んでみましょう。より詳しい検査や効果的な選択肢を提案してもらえることもあるかもしれません。主治医の変更や転院をしたくない場合は、セカンドオピニオンを利用することも一つの手です。後悔のない治療を受けるために患者さん自身が主体的に治療に取り組むことが大切です。

主治医に伝えるべきCOPDの症状



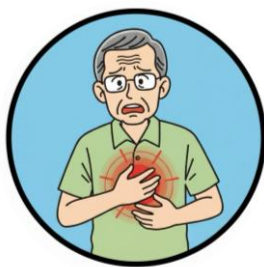
動いた時の息切れ



咳



痰



胸部不快感



COPDの不眠



疲労感

身体障害者手帳について

身体障害者手帳について

身体障害者手帳とは、身体に障害のある人に対する公的な支援や福祉サービスを受けるために必要な手帳です。

COPDによる呼吸機能障害が一定の基準に達している場合、「呼吸器の障害」として認定され、身体障害者手帳の交付対象となります。障害の重さ（等級）は呼吸機能検査の結果にもとづいて決められ、等級に応じてさまざまな支援やサービスを受けることができます。

手帳の交付を受けるためには、自治体ごとに指定されている医師の診断を受け、必要書類に記入して福祉事務局に申請する必要があります。詳しくは、お住まいの市町村の福祉事務局や障害福祉担当課にお問い合わせください。

呼吸器機能障害による身体障害者等級表

1級	呼吸器の機能の障害により自己の身の周りの日常生活活動が極度に制限されるもの
3級	呼吸器の機能の障害により家庭内での日常生活活動が著しく制限されるもの
4級	呼吸器の機能の障害により社会での日常生活活動が著しく制限されるもの

※2級はなし

受けられる福祉サービスの例

- 医療費助成
- 税金・交通費・公共料金の減免
- ネブライザー（お薬の吸入器）の購入助成
- 身体障害者ホームヘルプサービス等の利用
- 年金・手当の給付
- 通院用の自動車重量税の免除

【連絡事項・検査データ添付】

A large rectangular area with a solid black border, containing 25 horizontal dotted lines for text entry.

COPDの総合情報サイトについて

独立行政法人 環境再生保全機構

「ぜん息・COPD相談室公式サイト」

<https://www.erca.go.jp/yobou/copd/>

上記URLにアクセスしてください

アレルギーを含む2型炎症の総合サイト

「アレルギーi」

Copyright © 2012-2025 Sanofi K.K. All rights reserved

[「アレルギーi」とネット検索してください](#)

